

令和6年度 墨田区立立花幼稚園 幼稚園経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 園長 宮田 宏子

幼稚園教育目標	○心も体も元気な子ども ○自分で考えやりぬく子ども ○互いを大切に子ども
目指す幼稚園像	『一人一人が輝く温かい幼稚園』
目指す幼児像	・困難に向き合い、よりよい方向へ向かっていこうとする幼児
目指す教師像	・一人一人に応じた丁寧な指導を行い、やりがいと自己の成長を感じる教師

○令和6年度 幼稚園経営計画における重点内容
・直接体験を通じた遊びの充実
・様々な人との関わり、地域との連携を通じたコミュニケーション力の育成
・家庭との連続性を踏まえた教育の充実

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
保育活動等	今年度の研究テーマ「たくましい幼児の育成」に向けた教育を実施する。 ①実践事例を検討し、環境設定や指導に生かす。	①講師を招聘しての園内研究会を年2回、実践事例検討会を月1回実施する。	4 園内研究会実施 年8回以上	3	4 教員自己評価「たくましい幼児の育成」達成 90%以上	4	・昨年度からの研究成果を踏まえ「たくましい幼児の育成」に向けた園内研究会を実施したことで、指導に生かすことができ、幼児の成長が見られた。	・研究の継続とともに、日々の適切な評価・反省を実施し、指導計画の改訂に生かす。	A	A	・園児の自主性をバランスよく育てている。 ・生物の飼育と観察を大切にしている、園児の成長に役立っていると感じる。
			3 園内研究会実施 年6回以上		3 教員自己評価「たくましい幼児の育成」達成 70%以上						
			2 園内研究会実施 年4回以上		2 教員自己評価「たくましい幼児の育成」達成 50%以上						
			1 園内研究会実施 年4回未満		1 教員自己評価「たくましい幼児の育成」達成 50%未満						
	特別な支援を必要とする幼児への組織的な支援を実施する。 ①個別支援計画に基づいた支援を全教職員で共通理解し、実践する。	①各学級において、年2回の巡回相談の伝達を含め、記録ノートを活用し、保育記録・支援方針についての共通理解を週1回以上実施する。	4 記録ノート活用と共通理解実施 週1回以上	3	4 教員自己評価「共通理解が組織的支援に有効」90%以上	3	・巡回相談の実施後、個別の具体的支援について全教職員での共通理解を図り、当該幼児の支援目標の達成が見られた。 ・記録ノートと朝会等での報告の両方から共通理解を図るとよい。	・巡回相談内容の確実な伝達だけでなく、研修内容の伝達により全教職員の専門性向上を図る。より効果的な記録ノートの活用方法を工夫する。	A	A	・各行事の中で、配慮の必要な子への対応も、とても丁寧に温かさが伝わってきた。
			3 記録ノート活用と共通理解実施 月3回以上		3 教員自己評価「共通理解が組織的支援に有効」70%以上						
			2 記録ノート活用と共通理解実施 月2回以上		2 教員自己評価「共通理解が組織的支援に有効」50%以上						
			1 記録ノート活用と共通理解実施 月2回未満		1 教員自己評価「共通理解が組織的支援に有効」50%未満						
	人と関わる力を育む教育を実施する。 ①人との関わりを深め、喜びや葛藤体験を重視した教育を推進する。	①友達との関わり、学年間の関わりが生まれる教育の工夫を週案に反映する。	4 学年間交流の実施 週4回以上	3	4 教員自己評価「幼児の関わる力の育成」達成 90%以上	3	・学年間交流を多く実施したことで、幼児同士の関わりが増え、関わる力の育成につながった。 ・環境や時間の使い方に工夫が必要である。	・園児数減少に伴い、学年間での異年齢交流の機会を大切にするとともに、関わりのもてる環境の見直し、合同保育の在り方を工夫する。	A	A	・園児の助け合いや協力、協調性を感じる。 ・園児数減少に対する先生方の工夫が感じられた。
			3 学年間交流の実施 週3回以上		3 教員自己評価「幼児の関わる力の育成」達成 70%以上						
			2 学年間交流の実施 週2回以上		2 教員自己評価「幼児の関わる力の育成」達成 50%以上						
			1 学年間交流の実施 週2回未満		1 教員自己評価「幼児の関わる力の育成」達成 50%未満						
②様々な人と関わる教育活動を推進する。	②保護者保育参加を月2回以上、高齢者交流を年9回、区立幼稚園合同保育を年4回以上、保育園交流を年3回以上、小学校交流を年2回以上実施する。	4 交流活動の実施状況 90%以上	3	4 教員自己評価「交流による教育的効果」達成 90%以上	4	・保護者、地域、区立幼稚園、保育園、小学校、高齢者などとの交流を計画的に実施し、交流による教育的効果があった。	・近隣区立幼稚園との合同保育・交流は、教育内容に位置付け、年間を通して計画的に実施する。	A	A	・高齢者施設との交流が素晴らしい。	
		3 交流活動の実施状況 70%以上		3 教員自己評価「交流による教育的効果」達成 70%以上							
		2 交流活動の実施状況 50%以上		2 教員自己評価「交流による教育的効果」達成 50%以上							
		1 交流活動の実施状況 50%未満		1 教員自己評価「交流による教育的効果」達成 50%未満							
生活指導等	基本的生活習慣・社会習慣を身に付ける取組を実施する。 ①健康な生活、身辺自立を育む教育を推進する。	①身辺自立に向けた個別指導、学級指導を毎日実施する。	4 身辺自立に向けた指導の実施 90%以上	4	4 教員自己評価「幼児の身辺自立の育成」達成 90%以上	4	・身辺自立に向けた個別の丁寧な指導により、幼児の基本的生活習慣や集団の中での社会習慣が身に付いた。年2回のあいさつ運動は、幼児が自信をもってあいさつする姿につながっている。	・幼児一人一人の自立に向け、特に、食事や排泄等の身辺自立について、家庭との連携をさらに深め、推進する。	A	A	
			3 身辺自立に向けた指導の実施 70%以上		3 教員自己評価「幼児の身辺自立の育成」達成 70%以上						
			2 身辺自立に向けた指導の実施 50%以上		2 教員自己評価「幼児の身辺自立の育成」達成 50%以上						
			1 身辺自立に向けた指導の実施 50%未満		1 教員自己評価「幼児の身辺自立の育成」達成 50%未満						
	②規範意識や自己の気持ちを調整する力を育成する。	②適時、遊びや生活のルールを幼児とともに考えたりつくったりし、実践する。	4 幼児とのルールづくりの実施 90%以上	3	4 教員自己評価「幼児の規範意識の育成」達成 90%以上	3	・遊びや生活の中で、場面を捉え、必要なルールに気付けるよう指導した。特に5歳児は、幼児とともに考え生活のルールづくりを実施し、規範意識の育成につながった。	・幼児自身が考え、必要感を感じ自分事として、自分たちで生活のルールをつくり守ろうとする姿を目指し、教育内容に位置付ける。	A	A	・さらに園児数が増え、大勢の中で生きる力が育っていけばよいと思う。 ・自ら考えて行動するための援助が素晴らしい。
			3 幼児とのルールづくりの実施 70%以上		3 教員自己評価「幼児の規範意識の育成」達成 70%以上						
			2 幼児とのルールづくりの実施 50%以上		2 教員自己評価「幼児の規範意識の育成」達成 50%以上						
			1 幼児とのルールづくりの実施 50%未満		1 教員自己評価「幼児の規範意識の育成」達成 50%未満						
	安全への意識、危機回避能力の育成や幼児の安全を確保するための取組を実施する。 ①安全への理解、考えて行動することのできる力を育成する。	①安全指導を月1回以上、避難訓練を月1回以上実施する。遊び、生活の中で適宜実施する。	4 安全指導、避難訓練の実施 月3回以上	4	4 教員自己評価「幼児の安全への意識向上」90%以上	4	・定期的な安全指導、安全点検を実施し、大きな事故なく過ごすことができた。 ・様々な想定避難訓練を実施し、幼児の安全への意識や考えて行動する力が高まった。	・幼児が自ら考えて行動したり、予測して危機回避したり、互いに助け合ったりできるよう、引き続き指導の徹底を図る。	A	A	・毎月の避難訓練により、園児の対応行動が身に付くと思う。
			3 安全指導、避難訓練の実施 月2回以上		3 教員自己評価「幼児の安全への意識向上」70%以上						
			2 安全指導、避難訓練の実施 月1回以上		2 教員自己評価「幼児の安全への意識向上」50%以上						
			1 安全指導、避難訓練の実施 月1回ずつ		1 教員自己評価「幼児の安全への意識向上」50%未満						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
	幼児の実態に合わせた教育目標設定及び園評価を実施する。 ①自己評価、幼稚園評価を踏まえた教育課程の評価・反省、次年度教育課程作成を実施する。	①年2回の教員自己評価、年1回の保護者アンケートをもとに、教育課程評価・作成に関する会議を3回実施する。	4	教育課程評価・作成会議の実施 4回以上	3	4	教員自己評価「教育課程への参画意識向上」90%以上	3	・毎月の職員会議において、都度、行事等の評価・反省を実施したことで、次年度に向けた園評価にスムーズに結びつけることができた。次年度の教育課程作成に生かすことができた。	・毎月の評価・反省の際、常に教育課程の評価・反省に反映させることで、教員の教育課程への参画意識向上、カリキュラム・マネジメント力向上につなげる。	B	B	
			3	教育課程評価・作成会議の実施 3回		3	教員自己評価「教育課程への参画意識向上」70%以上						
			2	教育課程評価・作成会議の実施 2回		2	教員自己評価「教育課程への参画意識向上」50%以上						
			1	教育課程評価・作成会議の実施 1回		1	教員自己評価「教育課程への参画意識向上」50%未満						
園の管理運営	経営方針に基づいた組織的な教育活動、園経営を実施する。 ①学級経営案・週案の作成を共有により、計画的、組織的な教育活動を実施する。	①年3回の学級経営案作成と、週1回の学年会（週案打ち合わせ）を実施し、全職員で共有する。	4	週1回の週案共有と共通理解 100%	3	4	教員自己評価「計画的、組織的な教育の実施」90%以上	3	・週案の共有が図られ、毎日の朝会においても週案内容の確認を実施したことで、組織的・計画的に進めることができた。 ・学級経営案の共通理解には課題が残る。	・担任が作成する学級経営案について、全教職員で共通理解する機会をもち、週案とも結びつけ、指導に生かせるようにする。	B	B	
			3	週1回の週案共有と共通理解 90%以上		3	教員自己評価「計画的、組織的な教育の実施」70%以上						
			2	週1回の週案共有と共通理解 70%以上		2	教員自己評価「計画的、組織的な教育の実施」50%以上						
			1	週1回の週案共有と共通理解 50%以上		1	教員自己評価「計画的、組織的な教育の実施」50%未満						
	教員の指導力向上のための取組を実施する。 ①教員の保育理論構築と指導力向上を図る。	①朝会時に全教職員を対象に指導、人権、安全、服務などに関するミニ研修を週1回以上実施する。	4	週1回のミニ研修会の実施 100%	4	4	教員自己評価「自己の指導力や意識向上」90%以上	4	・外部講師による園内研究や、研究会・研修会への参加、朝会時のミニ研修、学年会などを通して、教員の指導力向上や意識向上が見られた。	・全教職員への伝達研修の徹底、自主的な研修への参加の奨励を通し、互いに高め合いながら指導力や専門性向上につなげる。	A	A	・園長のリーダー性と教職員の意識の高さが素晴らしい。
			3	週1回のミニ研修会の実施 90%以上		3	教員自己評価「自己の指導力や意識向上」70%以上						
			2	週1回のミニ研修会の実施 70%以上		2	教員自己評価「自己の指導力や意識向上」50%以上						
			1	週1回のミニ研修会の実施 50%以上		1	教員自己評価「自己の指導力や意識向上」50%未満						
家庭・地域連携	教育方針、教育内容について分かりやすく発信し、理解促進を図る。 ①公開、参観、掲示、ホームページを活用し、広く発信する。	①幼稚園公開、参観を年5回以上、保護者会・懇談会を年8回実施するとともに、写真を活用したドキュメンテーション掲示やホームページ更新を週1回以上実施する。	4	週1回のドキュメンテーション、ホームページ更新 90%以上	3	4	保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 90%以上	4	・幼稚園公開、保育参観、保護者会、配布物、写真掲示、ホームページ等で教育内容やその意義について発信することができた。保護者アンケートでは、高い肯定的評価を得られた。	・未就園児の会と連携し幼児との交流の機会を増やすことで、教育内容や公立幼稚園の魅力発信につなげる。	A	A	・少人数のよさが園内のあちこちに出ている。運動会も、みんながひとつになっていてよかった。
			3	週1回のドキュメンテーション、ホームページ更新 70%以上		3	保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 70%以上						
			2	週1回のドキュメンテーション、ホームページ更新 50%以上		2	保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 50%以上						
			1	週1回のドキュメンテーション、ホームページ更新 50%未満		1	保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 50%未満						
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を実施する。 ①保護者保育参加や地域ゲストティーチャーを活用した教育活動を実施する。	①運動遊び、絵本、手話、あいさつ運動、栽培、季節行事など、ゲストティーチャーによる活動を年14回以上実施する。	4	ゲストティーチャーによる教育活動の実施 年14回以上	4	4	保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 90%以上	4	・保護者参加行事やゲストティーチャーの活用は、計画以上に実施することができ、教育内容の充実とともに教育的効果をあげることができた。	・地域の施設や人材を活用した教育活動は、自園の特色として継続し、教育内容の充実を図る。	A	A	・公開、交流、外部講師など、行事内容の工夫を感じる。
			3	ゲストティーチャーによる教育活動の実施 年12回以上		3	保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 70%以上						
			2	ゲストティーチャーによる教育活動の実施 年10回以上		2	保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 50%以上						
			1	ゲストティーチャーによる教育活動の実施 年10回未満		1	保護者・外部評価での教育内容肯定的評価 50%未満						
	保護者や地域からの要望を踏まえた教育を実施する。 ①保護者や地域からの意見や要望を教育内容に生かす。	①日常的の対応とともに、保護者個人面談を年3回、保護者・地域による行事ごとのアンケート、年1回の幼稚園評価を実施する。	4	日常の対応、定期的なアンケートの実施 90%以上	4	4	保護者・外部評価での保護者対応肯定的評価 90%以上	4	・日常的な対応や行事ごとのアンケート、個人面談などを実施し、保護者にフィードバックするとともに、教育内容に生かすことができた。	・園児数が少ない中であるからこそ、一人一人の保護者とのコミュニケーションをより密にし、幼児の成長のための連携を強化する。	A	A	・保護者が安心して預けられている環境が素晴らしい。 ・園児数の減少がとても残念である。保護者のニーズに合った形になるとよい。
			3	日常の対応、定期的なアンケートの実施 70%以上		3	保護者・外部評価での保護者対応肯定的評価 70%以上						
			2	日常の対応、定期的なアンケートの実施 50%以上		2	保護者・外部評価での保護者対応肯定的評価 50%以上						
			1	日常の対応、定期的なアンケートの実施 50%未満		1	保護者・外部評価での保護者対応肯定的評価 50%未満						

○令和6年度 幼稚園経営報告のまとめ（総括）

幼児の主体性を重視し、「遊ぶ力」「考える力」「関わる力」を重視した教育活動が、これまでの積み重ねの中で充実してきており、幼児の育ちにつながっている。保護者および学校関係者の方から高い肯定的評価をいただき、園の教育内容への理解が得られていることを感じた。園児数減少が残念でならないという声が多く、今後、園教育充実のためにも大きな課題として取り組んでいく必要がある。園の教育内容や魅力の発信を強化し、墨田区全体の幼児教育を牽引する立場としての教育の推進を行いたい。